

FEATURES

現代に息づく、高岡の文化400年



特集 一 ものづくり

高岡の鑄物の歴史は、誇り高き7人の鑄物師から始まった。

高岡市は高岡銅器や高岡漆器に代表される、ものづくりのまち。高岡では伝統の技を生かした最新のものづくりが盛んに行われており、国内外の大きな注目を集めている。

高岡のものづくりの礎をつくったのは、慶長14年(1609)に高岡のまちを開いた前田利長です。城下町の産業発展のため、慶長16年(1611)年に砺波郡の西部金屋・高岡市戸出から河内鑄物師の流れをくむ、腕利きの7人の鑄物師を招き、千保川の左岸に土地を与え、住まわせたと言われています。これが金屋町のはじまりです。

鑄物師たちは、最初は金具や銅釜、鋤、鎌など、生活道具や農具などの鉄物をつくっていました。江戸中期頃からは生活が豊かになって、仏具師による仏具、花瓶、香炉、火鉢などの小型の銅器や梵鐘の生産も盛んになりました。北陸は真宗王国と呼ばれるほど信仰に厚い土地。そのため仏具や梵鐘も盛んにつくられていったのです。

鑄物師と名乗り仕事ができるのは、全国の鑄物師を統括していた京都の公家・真継家を通して、朝廷の許しを得ただけ。鑄物師には税金の免除など多くの特権が与えられました。加賀藩が鑄物師を手厚く保護したことが日本有数の鑄物産地の形成につながりました。



御印祭は、利長の命日である6月20日に道徳を忍び、感謝する金屋町の祭礼。前夜祭には鑄物師の作業唄「弥栄節」に振付けた踊りで盛大に町流しが行われる。

高岡の地で花開いた、二大伝統工芸。高岡銅器と高岡漆器。

特集 二 銅器

高岡銅器は国指定伝統的工芸品。銅合金の鑄物では日本のトップシェアを誇ります。多くは原型・鑄造・彫金・着色の各工程ごとに、高い技術を持った職人たちが分業制で仕上げていくのが特長です。

高岡銅器が大きく飛躍したのは明治期。銅器商の金森宗七は廃藩置県で職を失った旧加賀藩・富山藩お抱えの彫金や象嵌の名工たちを高岡に招き、高度な技を取り入れました。明治政府の奨励もあり、超絶技巧を駆使した作品を次々とつくり、これがウイーンやパリ、ロンドンといった万博で高い評価を得ました。明治から大正には富山県工業学校(現富岡工業高校)や県工業試験場もつくられ、デザインや技術を近代化。分業制はその頃からかなり進み、生産量が増大していきました。

今では、高岡の鑄物産業は、銅・青銅や真鍮のほか、錫、アルミなどの素材にも広がっています。鑄造の型も生型・双型、焼型、蛸型と様々です。金属を腐食させる着色技法には伝統色のオグロ、煮色、青銅色などがあり、高岡は職人が伝統の技で最新のものづくりに挑む、熱いまちなのです。



「武人文大香炉」(高岡市指定文化財) 二代 横山彌左衛門 作 (1845-1903) 明治10年/ 最大径20.9cm、高さ68.2cm 高岡市美術館蔵

銅器

高岡の伝統的な工芸漆器の元祖は江戸後期に活躍した辻丹甫。京都で学び、擬堆黒(朱)、存星など唐風の技法を伝えたと言われています。いまも高岡御車山の高欄や後屏、大黒天にその高い技を見ることが出来ます。高岡独自の主な技法には、勇助塗、彫刻塗、青貝塗(螺鈿)の3つがあります。勇助塗は江戸末期から、石井勇助とその息子や弟子たちが発展させた技で、存星、鏤絵、箔絵、玉石、青貝など、いくつもの技法を組み合わせるもの。高岡漆器の素晴らしさは、夏目漱石が「虞美人草」で詳しく描写したほどです。ぜひ手にとって、高岡漆器の本当の凄さをお確かめください。

漆器

タンス、椅子、鏡台、屏風など、城下町の家具製作から始まった高岡漆器。江戸から明治にかけて、勇助塗、彫刻塗、青貝塗、鏤絵、箔絵など独自の技法が発展し、明治期には日本トップクラスの鑄物産地となりました。

《山水花鳥図茶箱》 初代 石井勇助 (1810-1886) 作 明治時代/ 幅87.5cm、奥行36.5cm、高さ83.0cm 高岡市美術館蔵

特集 三 漆器



まるで、動く美術館。高岡御車山とは。



特集 四 高岡御車山祭

車輪

二番町の車輪は御所車の形を留めた二輪で大きさは最大。まちごとに桐、菊、龍、鳳凰、唐草、梅鉢、雲などの精緻な金具で彩られます。



豪華な金工で飾られた漆塗りの車輪がギィと軋む音。幔幕のなかで囃子方が奏でる気品あるお囃子。邪気を祓いながら力強く回る御車山は、音でも別世界へと誘ってくれます。毎年5月1日に開催される高岡御車山祭は、前田利長が1609年に高岡を開町した際に、豊臣秀吉から父の利家が拝領した御所車を、町民に与えたのが始まりとされています。それは豊臣秀吉が後陽成天皇を聚楽第に迎える際に使用したもので、車輪は二輪でした。現在も二番町の御車山のみ、車輪は二輪となっています。

高岡御車山は国の重要有形民俗文化財・無形民俗文化財。京都の祇園祭や高山祭、秩父祭など、全国で5件指定されているうちの一つです。金工・漆工・染織などの優れた工芸技術で装飾が施された山は、動く美術館とも呼ばれ、日本屈指の絢爛豪華さを誇る貴重なものとなっています。

御車山は全部で7基あります。通町、御馬出町、守山町、木舟町、小馬出町、一番街通、二番町の順番でまちを巡行します。坂下町は山を先導する獅子頭・

特集 五 伏木曳山祭

けんか山の異名をとる伏木曳山祭。

伏木曳山祭は、5月第3土曜日に行われる伏木神社の春の祭礼です。誇りに満ちた若者たちの「イヤサー、イヤサー」の掛け声とともに、昼は花山車、夜は幻想的な提灯山車、まちを練り回ります。大勢の観客が集まる中で、重さ8トンもある曳山同士がズシーンとぶつかる



「かつちゃ」は魂に響くよう。「かつちゃ」とは、かつける(ぶつける)という意味で祭り一番の見所です。

ぶつけ合う柱は、付長手と呼ばれるカシの太木で毎年新調。近隣の山から町内の人々が自ら切り出し、時間をかけて加工し、祭りの夜に備えます。付長手の取り付けは「算段」といい、縄だけで固定します。縄の掛け方は町内ごとに異なり、勝敗の行方を左右するため秘伝です。

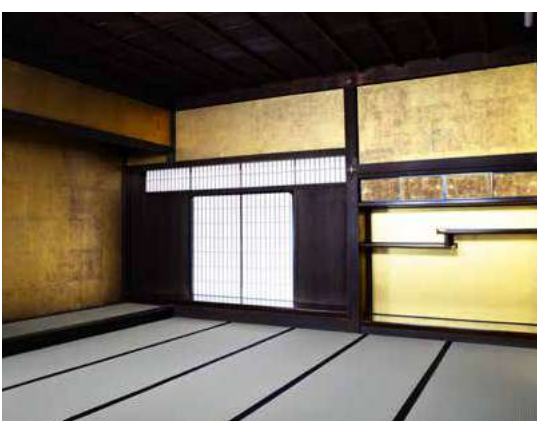
寛永6年、6基の曳山が山倉町でライトアップされ、当日には中町、上町、本町、寶路町、石坂町、湊町の山車が町を練り歩きます。十七軒町の曳山は明治の大火で焼失しましたが、平成なかばから少しずつ復元が進められ、平成28年(2016年)に完成。伏木コミュニティセンターで通年展示され、美しい姿を間近で見ることが出来ます。

二十余年の大修理を経て、ついにその全貌が明らかに！

特集 六 雲龍山勝興寺

伏木で「ふるこはん」として親しまれる雲龍山勝興寺が、平成10年(1998年)から23年に及ぶ平成の大修理を終え、江戸時代さながらの壮麗な姿にやみがえりました。

明治維新以降、全国の多くの神社仏閣などが規模縮小や滅失といった運命をたどるなか、勝興寺は江戸期築の建造物がほぼ当時のまま。もとは文明3年(1471年)、加賀との国境に営まれた土山坊が起源。戦国期には同宗派の僧侶門徒に大きな影響力をもちながら、越中一向一揆の拠点として戦国武将たちと関わってきました。



左 「唐門」は、京都の興正寺から北前船で運ばれたと考えられている。このほか本堂を含む12棟の建造物が国指定重要文化財。

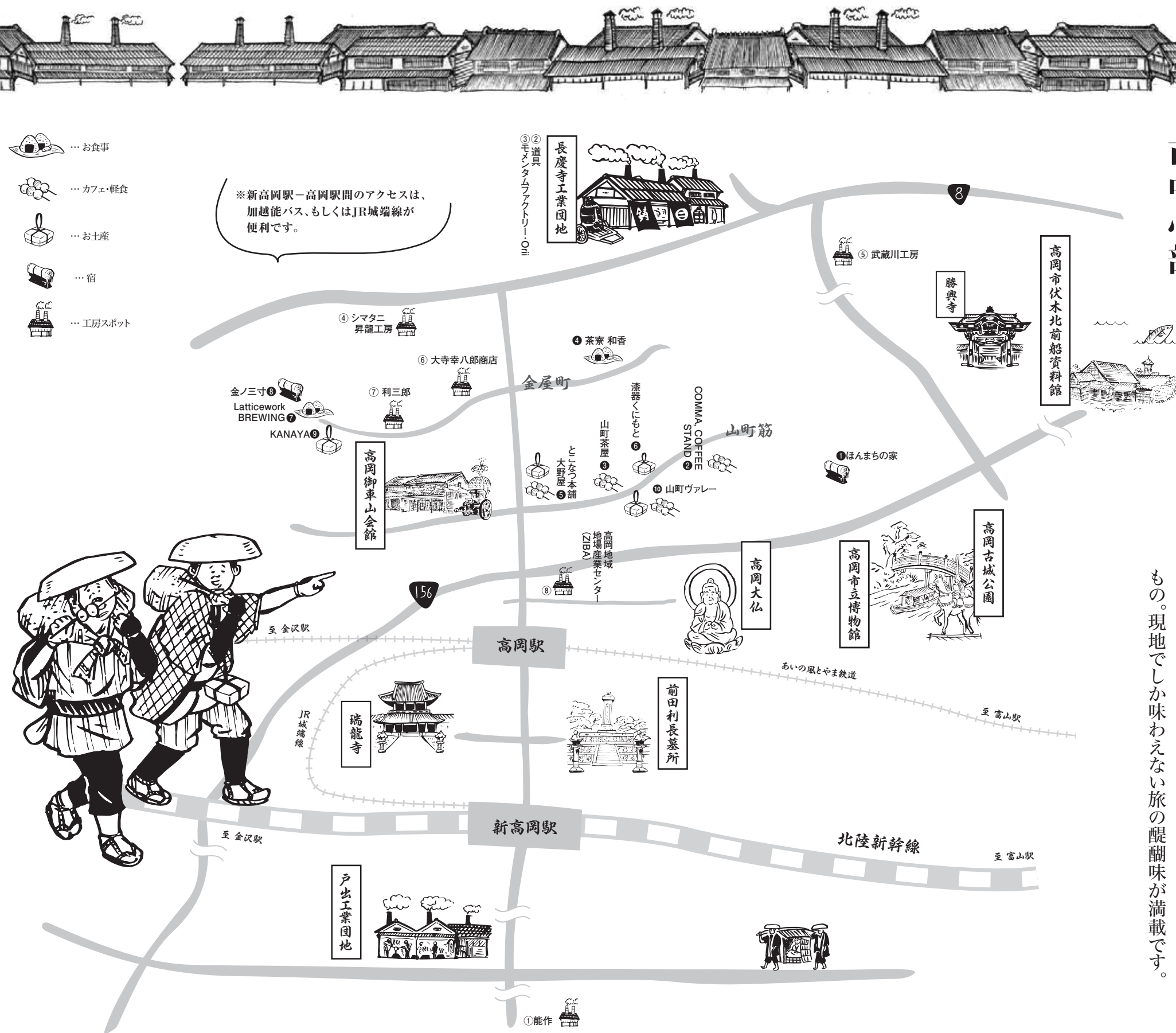
右 本坊(寺の住居部分の総称)の各部屋では工夫が凝らされた意匠が見られ、特に住職の居間であった奥書院(通常非公開)は壁と襖全面が金箔貼りの見事な設え。本堂と本坊を結ぶ廊下が門使用・僧侶用に分かれているのも珍しい例。

商工業の奨励など花開いた町民文化とその心意気が北前船交流とも相まって高岡は発展したんだ。日本遺産に認定された2つの物語は、密接に関係しているね



高岡徒然道中記

市中心部



「日本遺産」に認定された2つの物語を体験していただく旅をご提案。歴史、文化遺産、趣あるまち並み、工房見学、ものづくり体験、そしてご当地の美味しいもの。現地でしか味わえない旅の醍醐味が満載です。

立ち寄りスポット

	①ゲストハウス「ほんまちの家」 築70年の町家を改修した趣あるゲストハウス。土間、中庭、蔵など、高岡の町家の形がそのまま活かされた空間で、ゆったりとした時間をお過ごしください。 高岡市本町1-24 Tel.0766-25-2676
	②COMMA, COFFEE STAND シングルオリジンコーヒー、特製シェーククリームが人気のお店。素敵に改装された山町筋の商家で街歩き途中の休憩をどうぞ。 高岡市小馬出町48-1 Tel.070-5465-0993 火曜・第4曜定休
	③山町茶屋 山町筋にある土蔵造りの喫茶店。老舗菓子店「大野屋」と連携し、県産食材を使った甘味や飲み物などを提供。高岡の銘物や漆器の食器でお楽しみ下さい。 高岡市本町38 Tel.0766-25-1117 水曜日定休
	④茶寮 和香 金屋町の伝統的な町屋を改装した落ち着いた雰囲気店内。一汁三菜のデザート付きランチは一日10セット限定なので、予約がベター。 高岡市金屋町2-26 Tel.0766-75-8529 日曜・祝日定休
	⑤とこなつ本舗 大野屋 創業天保9年(1838年)の老舗和菓子店・大野屋。古くから使われてきた和菓子の木型と富山県産の材料を使って作った「高岡ラムネ」はお土産にも最適。 高岡市本町12 Tel.0766-25-0215 水曜定休

工房見学・体験スポット

①能作 見学・体験 鋳物 創業から100年を超える老舗鋳物メーカー。美術家とのコラボや医療分野での商品開発など新しい取組みにも積極的。工場見学や鋳物製作体験ができます。 高岡市オフィスパーク8-1 Tel. 0766-63-0001	②道具 見学・体験 鋳物 広々とした工場で、熟練の職人さんたちが砂で型を作り、1000度以上の高温で溶かした金属を流し込む。今もほとんどが手仕事で行われるものづくりの現場を体験できます。 高岡市長慶寺1000 Tel.0766-23-8540	③モメンタムファクトリー-Onii 見学・体験 着色 高岡の伝統的な金属着色技法から独自の技術を確立している「モメンタムファクトリー-Onii」。銅板のコースター・トレイに着色する体験ができます。 高岡市長江530 Tel. 0766-23-9685	④シマタニ昇龍工房 見学 鋳金 日本に10人に満たない、手打ちで「おりん」を作る職人さんたちがいる工房。形だけでなく、「調音」の技もすごいんです。人気商品「すずがみ」にも鋳金の技が活かされています。 高岡市千石町4-2 Tel. 0766-22-4727
⑤武蔵川工房 体験 螺鈿 0.1mmまで薄く削った貝殻から形を切り出すという、高岡が誇る繊細な技術を受け継ぐ工房。光を乱反射する美しい本物の貝を使った螺鈿体験ができます。 高岡市地子木町1-23 Tel. 0766-26-0792	⑥大寺幸八郎商店 体験 金工 築200年を超える金屋町の典型的な長屋の形を残す大寺家。その空間を開放したカフェ＆ギャラリーで、鋳物のアクセサリー製作体験ができます。 高岡市金屋町6-9 Tel. 0766-25-1911 火曜日定休(祝日営業)	⑦鋳物 利三郎 見学・体験 鋳物 金屋町で今も鋳物業を営む工房。レトロな雰囲気の中、高岡の金工品を扱うショップでもあります。 高岡市金屋町8-11 Tel.0766-24-0852 第4日曜日定休	⑧高岡地域産業センター ZIBA(ジーバ) 体験 鋳物・漆器 純銅を使用したミニ水盤やぐい呑みを作成する鋳物体験や、ペンダントなどへ蒔絵、青貝で加飾する漆器体験ができます。県内の伝統工芸品の販売もしています。 高岡市御旅屋町101 御旅屋セリオ2階 Tel.0766-25-8283 水曜日休館

見学・体験には事前にご予約が必要です。

旅程《1日目》

その1.. 国宝 高岡山瑞龍寺

その2.. 山町ヴァレーでランチ

その3.. 山町筋を散策

その4.. 高岡城跡(高岡古城公園)

《お宿》ゲストハウス「ほんまちの家」



国宝 高岡山瑞龍寺
高岡市関本町35
Tel. 0766-22-0179



山町筋
(重要伝統的建造物群保存地区)
高岡市本町36(菅野家住宅)
9時30分~16時 火曜休館
Tel.0766-22-3078



高岡御車山会館
高岡市守山町 47-1
Tel:0766-30-2497
火曜日休館



高岡城跡
(高岡古城公園)
高岡市古城1-9
Tel:0766-20-1563(管理事務所)

旅程《2日目》

その5.. 高岡大仏を参拝し、金屋町を散策

その6.. さまのこ屋でランチ・吉久を散策

その7.. 雲龍山勝興寺

その8.. 伏木を散策



高岡大仏
高岡市大手町11-29



金屋町
(重要伝統的建造物群保存地区)
「高岡市鋳物資料館」 高岡市金屋町1-5
Tel.0766-28-6088 火曜日休館



吉久
(重要伝統的建造物群保存地区)



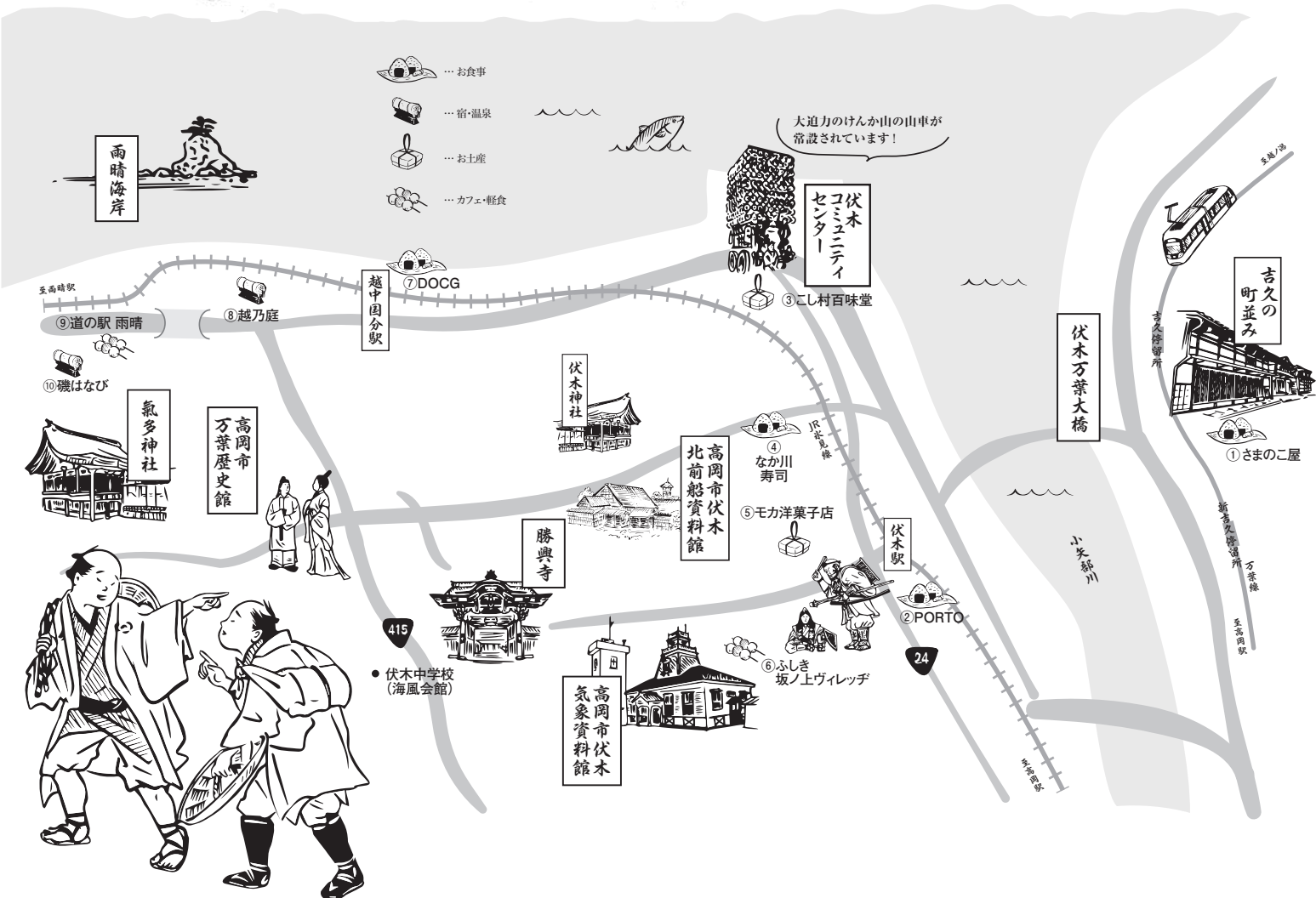
高岡市伏木北前船資料館
(旧秋元家住宅)
高岡市伏木古国府7-49
Tel.0766-44-3999 火曜休館



高岡徒然道中記

市北部（吉久・伏木）

奈良時代には国府が置かれ、江戸時代には北前船の寄港地として、多くの人や物が往来した伏木のまち。あちこちに残る歴史の痕跡とそこに暮らす人々に、会いに来てみませんか？海沿いを走る氷見線や路面電車万葉線からの車窓を楽しみながらの移動も、旅を盛り上げてくれますよ。



① さまのご屋



明治期築とされる町家を活かしたカフェ。飲み物・デザートのほか、地元の旬野菜を中心とした、体に優しいランチを提供する。

高岡市吉久2-3-14
10～17時 月～水曜定休
Tel. 0766-82-7113

② PORTO



伏木駅から徒歩すぐ。ごくごく飲めてしまうスープに太麺が絡む、鶏骨ラーメン（塩）が一番人気。夜は居酒屋メニューも充実。

高岡市伏木古国府1-10
11時30分～14時、18～22時 月曜定休
Tel.0766-75-9286

③ こし村百味堂



国産の鬼胡桃にこだわって手作りされた「千代くるみ」は昭和天皇や上皇天皇にも献上された銘菓。季節の生菓子や干菓子も美しい。

高岡市伏木中央町3-50
9～18時 火曜定休
Tel.0766-44-0623

④ なか川寿司



近郊の新鮮な魚の握り寿司や豪華な巻き寿司を手ごろな価格で、気さくなご主人との会話を楽しみながら。昼は前日までに要予約。

高岡市伏木錦町2-8
17～21時 月曜定休
Tel.0766-44-0793

⑤ モカ洋菓子店



丁寧に作られたお菓子をリーズナブルに。人気のシュークリームのほか、「如意渡しスイートポテト」、「雨晴マドレーヌ」など。

高岡市伏木古国府7-14
8時30分～18時 火曜定休
Tel. 0766-44-0531

⑥ ふしき坂ノ上ヴィレッヂ



無添加の弁当・飲み物などを提供する「にじのこや」とガラス作品の工房・ショップ「アポロ」が入るコンテナショップ村。

高岡市伏木古国府12-8
11～18時（土・日・祝日は10時～）木曜定休
Tel. 080-4643-6164（にじのこや）

⑦ DOCG



窓からの海や立山連峰の眺めが美しいイタリアンの店。人気の渡り蟹のトマトクリームパスタほか、季節限定メニューなど種類豊富。

高岡市伏木国分2-4-1
11時30分～14時30分、17時30分～21時 月曜・第3火曜定休 Tel.0766-44-2757

⑧ 越乃庭



メタケイ酸を豊富に含む天然温泉やサウナ、岩盤浴のある入浴施設。好天の日は立山連峰からの日の出を見ながらの朝風呂もおすすすめ。

高岡市伏木国分2-5-25
5時30分～8時、10～23時（日曜は通し営業）年中無休 Tel.0766-44-7739

⑨ 道の駅 雨晴



オーシャンビューで寛げるカフェ、こだわりのクラフトや地元産品を揃える土産店、展望デッキ等。雨晴海岸の絶景を楽しむならここ。

高岡市太田24-74
9～19時 年中無休
Tel.0766-53-5661

⑩ 雨晴温泉 磯はなび



海に面した露天風呂からの眺望や、季節に応じた新鮮な食材を用いた会席料理などが自慢の温泉旅館。日帰りプランも予約可。

高岡市太田88-1
9～21時（予約受付）
Tel.0766-44-6161（予約専用）

立ち寄りスポット

車でのアクセス（高岡ICまで）

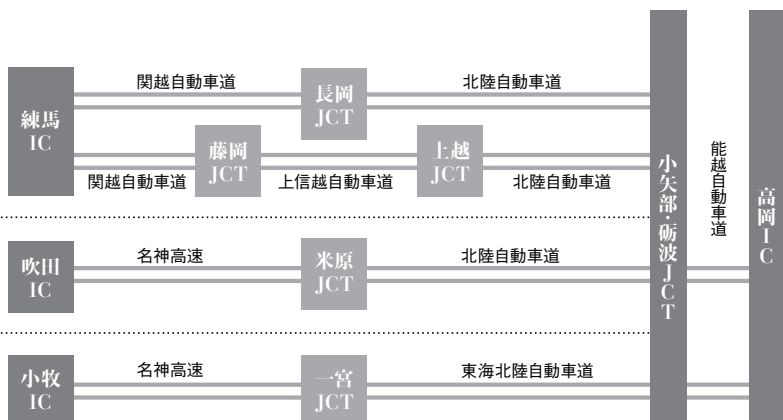
東京首都圏から

長岡JCT経由
約6時間

藤岡JCT・上越JCT経由
約5時間30分

大阪から
約4時間

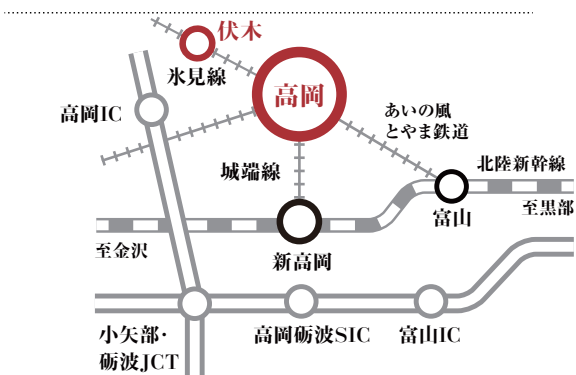
名古屋から
東海北陸自動車道経由
約2時間30分



電車でのアクセス

東京から
約2時間30分

大阪から
約3時間



TAKAOKA「高岡発瓦版：総集編」 2022年2月発行

発行：高岡市日本遺産推進協議会（文化創造課 Tel.0766-20-1255） 監修：高岡市立博物館 企画・編集：有限会社エビファニーワークス 取材・文：タダカツ/荻布裕子 イラスト：佐藤義隆 デザイン：株式会社ROLE